

当たり前を見直す

第一生命経済研究所 専務取締役経済調査部長 佐久間 啓

「いい国作ろう鎌倉幕府」だから鎌倉幕府ができたのは 1192 年、頼朝が征夷大將軍に任ぜられた年である。語呂あわせで年表を覚えた方も多いと思う。しかし今では最初の武家政権である鎌倉幕府ができたのは実質的な政治権力が頼朝に移った 1185 年というのが定説になっているらしい。また筆者が歴史年表として覚えている一番古い「大化の改新は 645 年」というのも今では 646 年というのが定説とのこと。最近はクイズ番組等を見ているとこうした「へ～そうなんだ」という場面に出会うことも多い。

考えてみればこうした歴史年表を覚えたのは 30 年以上も昔のことである。この間も新しい資料が見つかり日夜研究が進められてこれまでそうだろうと考えられていたことが修正されてきたわけだ。よく「知識は古くなる」という言い方をする。テスト勉強で知識を詰め込んでいるときはなんとなくピンとこなかったがまさしくこういうことなのだろう。

この歴史の新しい研究成果で筆者が一番「へ～そうなんだ」というより「え～そうなの」と思ったのは聖徳太子の件だ。今でこそ 1 万円札には福沢諭吉の肖像が使われているが、最初の 1 万円札（1958 年～1986 年）には聖徳太子が使われていた。昭和初期から何度か紙幣の顔として使われて親しまれていたこともあり 1 万円札の代名詞として「聖徳太子」を使うのが当たり前の時代があった。あの肖像画が今では別人のものというのが多数説であり「聖徳太子と思われる」、「伝聖徳太子」という但し書きつきで教科書に掲載されている。大人になると決まった教科書がある訳でもなく誰かが定期的に授業をしてくれる訳でもない。新しい知識は自分でとりにいかなければいけないのだろう。

知識が古くなって、以前は当たり前と言われていたことがそうではなくなっているという事はいろいろな分野で見られる。気候の変化やそれにともない農作物の産地が変化したり

していることもそうだし、社会インフラが整備されたことで工場立地条件が変わり、生産や物流が大きく変わってきていることもそうだ。あらためて「社会」の勉強をしようと思う。

経済に関しては最近でいえば輸出と円安の関係もそうかもしれない。円安になれば価格競争力の変化を通じて輸出を拡大させるというのが当たり前の考え方であるが 2012 年末以降の円安局面では思った以上に輸出が伸びてこない。アジア、EU で経済に勢いがいいことが大きな要因ではあるが、リーマンショック後の厳しい経営環境の中で企業が海外現地生産の拡大や輸出価格のコントロールに動いていることも輸出が思うように伸びない要因だろう。その企業も数年間で製品別の売上構成比や内外の売上比率が大きく変わっていたりする。ここでも古い知識による思い込みは禁物だ。

ものづくり大国日本という言葉方をすると、GDP に占める製造業の比率は 90 年 25.7%、2012 年では 18.2%。製造業も大切だが非製造業の成長も考えていく必要がある。また個人の消費行動にしても 65 歳以上人口が全体の 25% を超える（総務省「人口推計」平成 26 年 8 月概算）状況の中で以前と同じ発想ではその全体像を理解できるはずがないと思う。

経済調査の仕事を担当して感じるのは家計や企業の行動は環境の変化に対応して確実に変化してきているので少し前の知識では当たり前と考えられていたことが通用しない或いは経験則どおりの動きにならないということが増えているということだ。

これからは自分の中の常識や経験で理解できないものを一時的なものとして無視したりせず、しっかり想像力を働かせて目の前の事実を理解していくことが大切なんだと思う。当たり前を見直そう。